

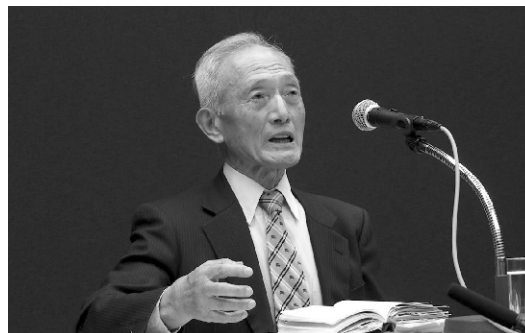
親鸞仏教センター連続講座「親鸞思想の解明」

親鸞の生きた人生態度を、現代社会の大切な思想として掘り起こそうと、親鸞の思想・信念を時代社会の関心の言葉で思索し、考え直す試みとして公開講座を行っています。

「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」④

本願の大きな世界

親鸞仏教センター所長 本多 弘之



連続講座「親鸞思想の解明」は、「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」の第103回～105回が東京国際フォーラム（有楽町）で行われ、103回では「菩薩」、「自在」等について、104回では「大慈悲」、「五眼」について、105回では「空にして所有なし」等について、センター所長・本多弘之が問題提起をし、有識者と一般参加者の方々との間で活発な質疑応答がなされた。ここでは、先に行われた第102回から一部を紹介する。

（親鸞仏教センター嘱託研究員 越部 良一）

■あらゆる世界に行く

「かの国の菩薩は、仏の威神を承けて、一食の頃あいだに十方無量の世界に往詣おうげいして、諸仏世尊を恭敬くぎやうし供養せん」（『真宗聖典』52頁、東本願寺出版）。浄土の菩薩は阿弥陀の力を受けることによって、「一食の頃」に、つまり一回食事をする間に、あらゆる世界に行くことができると。このようなことは、有限な身ではできないわけです。

宮沢賢治の詩（「雨ニモマケズ」）で、“東・西・南・北に行って、病気の人があったら看病したい、疲れた人があったら手助けしたい、死にそうな人があったら怖がらなくていいと言いたい”と、そのように言うでしょう。あれは菩薩の願心と言っても良いと思うのです。けれども、身は一つしかない。そうするとあっちもやりたい、こっちもやりたい、全部やりたいといっても現実にはできない。身が分裂するしかない。でも、願いはある。これは菩薩の願心、大悲心と言うしかない。だから、浄土の教えでは法蔵菩薩の願心でわれわれに

呼びかけてくる。では、われわれにできるかといったら、できないわけです。そういうところに悲しさがあるわけです。悲しい、でも世界が開ける。大きな慈悲が呼びかけている世界があるのだと。壁のない仏の大きな世界がある。

「かの国の菩薩は、仏の威神を承けて」、つまり本願力をいただいて、本願力に託すことにおいて、あらゆる世界にはたらくことができると。これを親鸞聖人は「還相回向げんそう」というかたちで教えてください。われわれが個人でできるはずがない。でも、本願力のはたらきのなかに凡夫が生かされることにおいて、本願力を観じ、本願力を語っていくことはできる。でも、自分が本願力を行ずるなどということはいけません。だから、菩薩ですら仏の威神力を受けてできると、こういうことが言われてくるわけです。

■本当に満ち足りたもの

そして、そこに「心の所念しんに随したがいて」「無数無量の供養じゆんの具けしやう、自然じねんに化生けしやうして念に依よじてすなわち至らん」（同上）と。華はなやら、香かりやら、音楽おんがくやら、仏に捧たもげるような供養の品々が自然に化生する。「化生」というのは、本願力のはたらきにおいてひとりで生まれてくることです。

先ほどの例で言うなら、東・西・南・北に違った苦悩の人たちがいる。どっちにも行きたいと言うけれど行けない。そのような状況を生きている命に対して、どうすれば良いのか。どうしようもないのです。大きな慈悲がみんなそれぞれに満ち足りた世界を与えているのだから、お前はまず、

お前自身に本当に満ち足りたものを見つけよと。だから、一食の頃に十方無量の世界に行けるといふのは、そういう満ち足りたものを本当に見いだしたならば、全部が満ち足りている世界に気づく。気づいたことにおいて、全部が満ち足りていると、こういうことが見えてくる。

でも、現実にはどこも満ち足りていないではないかと。現実には生老病死ですから、生まれてくる時も大変だし、生きていても大変だし、さらに亡くなっていく人をたすけるとなれば、それも大変だし、有限な力ではもうどうにもならない。できるところでやるしかない。できるところでやって空しく過ぎると感じたらどうするのだと、そういう問題です。それに対して大悲の本願は、あなたが要求しているものは既に満ち足りているよと。

■「汝、何の不足がある」

それで、清沢満之があのようなすごい文章を書いたことが感動を与えるのです。あれは、如来の心を自分に呼びかけている語り方だと思うのです。それは「請う勿れ、求むる勿れ、汝、何の不足がある。若し不足ありと思わば、是れ汝の不信にあらずや」(『臘扇記』)と書いておられる文章です。求めたり、どうかくださいと言ったり、そのように求めて如来からくるものではないのだと。お前に何の不足があるのか。このように確認しておられる。何かズキンとくるわけです。何でズキンとくるのかとずっと思っていたのですけれど、こんなことを言われても無理だ、やっぱり不平不満しかないとわれわれは思いながらも、「汝、何の不足がある」というその迫力にすごいと思うのです。あれは結局、本願がわれわれに呼びかけている呼びかけ方だと思うのです。

それがここでは、菩薩の仕事として、あらゆる諸仏の世界に行って、諸仏を供養して、もうあっという間に全部できますよと。このように本願の大きな世界とわれわれ凡夫の小さな世界とは、別々なようだけれども、実は、個としてそれぞれ

あること全部を包んで無限であると同時に、一人ひとりに無限が来ている、そういう関係にあると表わしているのだと思うのです。

(文責：親鸞仏教センター)

親鸞仏教センターの動き

(2017年8月～2017年10月) 一抄一

■2017年

- 8/1 人事発令(越部良一、法隆誠幸、飯島孝良が嘱託研究員として再任)
- 8/4 ご命日のつどい
- 8/8 第104回(通算第155回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 8/10 第203回英訳『教行信証』研究会
- 8/21 第16回「『教行信証』と善導」研究会
- 8/22 第3回「三宝としてのサンガ論」研究会
- 8/28 第179回清沢満之研究会
- 9/6 第4回「近現代『教行信証』研究」検証プロジェクト全体会
- 9/8 ご命日のつどい
第57回現代と親鸞の研究会「遠藤周作と井上洋治の思索—現代日本人に南無の心に生きる喜びと平安を届けるために—」ノートルダム清心女子大学副学長・キリスト教文化研究所教授:山根道公氏(文京区・親鸞仏教センター)
- 9/13 第204回英訳『教行信証』研究会
- 9/15 第180回清沢満之研究会
- 9/17 第24回真宗大谷派教学大会(しんらん交流館):
青柳研究員発表「伝承と己証—『教行信証』の構造に関する研究史と曾我量深の思索—」、中村嘱託研究員発表「證空の見仏/往生論」
- 9/19 第4回「三宝としてのサンガ論」研究会
- 9/29 第17回「『教行信証』と善導」研究会
- 10/3 第105回(通算第156回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 10/13 ご命日のつどい
- 10/17 第5回「三宝としてのサンガ論」研究会
- 10/24 第18回「『教行信証』と善導」研究会
- 10/27 第205回英訳『教行信証』研究会
- 10/30 第181回清沢満之研究会